

GREEN ニュース

環境アドバイザー連絡協議会

代表 原田 邦昭

2019 年 10 月発行



群馬県環境アドバイザーの動き

(令和元年 10 月 20 日現在)新規登録名

第 11 期(登録期間:平成 30 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日)です。新規登録者を含め令和元年 10 月 20 日現在、男性 169 名、女性 79 名、合計 254 名です。

自然環境部会 115 名 温暖化・エネルギー部会 85 名、ごみ部会 78 名、広報委員会 25 名が登録し活動されています。

送付方法、メール 129 名 封書 125 名

県内の環境イベントカレンダーをご活用下さい。

<http://www.gccca.jp/voluntee>

スイスから来た森林作業員、広葉樹伐倒の指導です。追いつく口を作らず大きな受け口作ること、ツル部を引きちぎるようにゆっくり倒れさせます。

「近自然森づくり」は、過去—この森はどのように出来たか
現在—今の状況
未来—何もしなければ、どんな森になるかを考えるとところから始まります。

※詳細は 4 ページにて

温暖化エネルギー部会 酒井千富

目次

- P2 環境政策課より
- P3 原田代表 地域の活動に参加しよう
- P4 近自然森づくりの紹介、ごみ部会
- P5 前橋市梅山さん、沼田市角田さんからの報告
- P6 渋川市伊藤さんからの報告
- P7 高崎市小峯さんからの報告
- P8 安中市吉澤さんからごみ減量への枠組み
編集後記

「令和元年度みんなのごみ減量フォーラム」を開催しました

群馬県森林環境部環境局環境政策課

今年も9月10日（火）に県庁2階ビジターセンターにおいて、県及び県環境アドバイザー連絡協議会の共催で「みんなのごみ減量フォーラム」を開催しました。

ごみ減量フォーラム当日は、県民の方々や市町村職員などを含め、約120名の方が参加し、現在、世界的な環境問題となっているプラスチックごみによる海洋汚染の実態を知り、持続可能な社会の実現に向けて、私たち一人一人で何ができるのかについて考える機会となりました。

第一部の講演会では、長年、環境問題について取材されている共同通信社の井田徹治氏を講師にお招きし、世界各地で起きているプラスチックごみによる環境汚染の現状や問題解決に向けて、企業、自治体、私たち消費者が取るべき対策などについて御講演いただきました。

第二部では、事例発表とパネルディスカッションを行い、日頃からプラスチックごみ削減に関連する取組を実施されている事例発表として、イオンリテール株式会社北関東カンパニーの須郷様、ぐんまりユース食器センターの高橋様、森を育む紙製飲料容器普及協議会の世木田様の3名に事例発表の御協力いただきました。

パネルディスカッションでは、コーディネーターの群馬大学教育学部西菌教授の進行により、「プラスチックごみ問題の解決に向けて、私たちができることを考える」というテーマのもと、来場者の皆さんと一緒に、問題解決の糸口を考えました。

プラスチックごみによる海洋汚染は、私たちが住む陸から流れ出たプラスチックごみが大きな原因と言われているため、この問題は海沿いの地域だけの問題では決してありません。レジ袋を断り、マイバックを利用する。必要の無い包装は断る。ごみの分別を徹底するなど、私たち一人一人ができることは、とても小さなことですが、この一人一人の行動が、問題解決にむけて、とても重要となります。

県としても、引き続き、プラスチックごみをはじめとするごみ減量に向けて、より一層努力して参りますので、環境アドバイザーの皆様におかれましては、引き続き、県環境行政への御理解・御協力の程、宜しくお願い致します。



○当日の様子（写真）

群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」



講演会



パネルディスカッション



展示コーナー

地域の活動に参加して見よう！

代表 原田邦昭

6月30日（日）朝から雨足が強く心配しましたが、開会前には雨が上がり、10時から「第12回環境フォーラムぬまた」が開催されました。会場は沼田市保健福祉センター、駐車場はほぼ満杯。準備を整え訪問者を迎えるスタッフの笑顔が印象的でした。

1階入口で牛乳パック用紙10枚をトイレトーパー1個の引換券と交換。バスの乗り方体験、花の育て方、石うすで粉づくり、ネイチャークラフト、天ぷら油の廃油石鹸、マイバックの推進、生ごみを堆肥に、EM菌で環境浄化、玉原高原のシカの食害、そして我らの群馬県環境アドバイザー・利根沼田連絡協議会の循環型3Rの取組みと発電実験がありました。

見たり体験しながら、3階まで各ブースを上手く通過できるようになっており、この会が12回も続いているのは地域の環境アドバイザーの方々の努力の賜物と感服しました。

午後は落語家・林家うん平師匠の環境講演会「江戸の環境リサイクル～今日からできる簡単・環境問題解決法～」江戸時代にも紙を大切に使った、風呂敷で買い物袋がすぐできるなど面白く分かりやすく語ってくれました。

沼田地域から環境に関係ある各種クラブ、学校関係、愛する会など13ものブースが参加されており有意義なフォーラムでした。

アドバイザーの会員各位も近くで開催される環境フェスティバル等に積極的に参加されることを望みます。



フォーラムの入り口



林家うん平師匠の環境落語

近自然森づくりの紹介（スイスのフォレスターに学ぶ）

温暖化・エネルギー部会 副部長 酒井千富

7月27日(土)岐阜県飛騨市での近自然森づくりワークショップについてお話しします。

日本では高性能林業機械を導入し生産量をもめる林業が進められていますが、ドイツ・スイスの林業はそれだけではありません。その森で将来に渡り育成していく木を選定し、その育林のための施業をして行きます（これを育成木施業といいます）。

近自然森づくりは天然更新を基本とし植林は行いません。ある木を伐倒するとそこにギャップ（光の入る空間）が生まれます。新たな樹木が生長し、育成木を選び施業を繰り返して行く。いずれは、収穫→ギャップ→育成木→収穫という循環林を作ることを目指します。

では、日本の森はどのように変えて行ったらよいのでしょうか？

初めに、その森の過去・現在・未来を考えることから始めます。次に、森の成り立ちから適地適木を見つけ、現状を認識します。そして、施業が与えるインパクトから森の変化を予測します。

近自然森づくりではコストに見合うリターンが得られない作業は行ないません。コストを掛けるに値する木の無い森では、ギャップを作り新たな生命(いのち)にコストを掛けるという選択肢をとることもあります。



この3年間のごみ減少量

ごみ部会長 山田一朗

すでに新聞報道されている通り平成29年度の県別廃棄物のデータが、今年の4月に環境省より公表されました。群馬県の一人一日当たりごみの排出量は、986グラムで全国ワースト8でした。一般廃棄物は事業系ごみと生活系ごみに区分され、生活系ごみは更に種類によって可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、資源物、混合ごみに区分されます。生活系収集可燃ごみについて、群馬はワースト1と言われてきました。しかし自治体により可燃ごみと言う区分がないところもあり、生活系収集可燃ごみと言う土俵に違いがあることが分かりました。生活系収集可燃ごみの土俵に違いがあっても、混合ごみとして計上されているので、一般ごみ全体の数字に影響はありません。平成26年度から29年度の3年間で群馬県の一人一日当たり一般ごみの排出量は、65グラム減少しました。そして3年間で65グラムの減少と言う数字は意外にも全国トップ、ベスト1でした。群馬県全体で概算約4万7千トン（3年間）のごみを減らしたことになります。

平成29年度における一人一日当たり排出量の減少量				
		(平成26年度比較)		(単位：g/人・日)
順位	都道府県名	H29実績	H26実績	減少量
1	群馬県	986	1051	▲65
2	京都府	843	901	▲58
3	和歌山県	942	992	▲50
4	青森県	1002	1046	▲44
5	東京都	888	931	▲43
	全国平均	920	947	▲27

身近な自然を観察しよう

前橋地区 梅山さやか

8月24日(土)・25日(日)、前橋プラザ元気21にて開催された「生涯学習フェスティバル2019」に参加しました。今年は例年と内容を変え、子ども達が身近な生物を「見て」、「触れて」、「感じる」内容に挑戦しました。当日は、中島さん(前橋市)、西村さん(太田市)、伊藤さん(渋川市)に指導、協力を頂きながら、おもしろい葉の植物、ザリガニやオタマジャクシなど川辺の生物、ダンゴ虫やヤスデ、カエルなど庭にいる生物を会場に持ち込み、子どもたちは、目をキラキラさせて観察しました。虫などは嫌がる人が多いかなと思いましたが、そんな心配はいりませんでした。

また、「子ども向け地域環境学習支援事業」を利用し、顕微鏡を県から借りました。中島さんが珪藻など水の微生物の世界を見せてくれ、子どもと共に大人、特に男性が多く興味を持って観察してくれました。子ども達が自分の周りの生き物の存在に気づき、興味を持つことから、自然環境を大切にする気持ちを育んでもらえたらと思います。



地域の夏のイベントで、「3R宣言賛同者」募る

利根沼田連絡協議会 角田和男

沼田市上原町主催「ふれあいサマーフェスティバル」が同町の第1児童公園において8月25日(日)に開催され、日焼けした子供たちや多くの町民が訪れ、ゲームやアトラクションを楽しんでおりました。当協議会は主催者が招いた「ぐんまちゃん」の人气に便乗し、熱中症対策を万全に、「3R宣言にご協力ください」と書いたメッセージを首に掲げ、3Rのポイントを説明し、実践項目欄のチェックをお願いしました。

平成29年度沼田市のごみ排出量は、前年に比べ増えています。今年6月に当協議会が実施したアンケート調査によると、群馬県のごみ排出量がワースト8位ということを知っている市民は僅か1割でした。このような状況を踏まえ、ごみ排出量削減に向けて来場者に訴えました。今回、賛同していただいた主婦の一人は、「当地は野菜や果物が豊富で、モロコシや枝豆、スイカなどの食べ殻が必然的に発生してしまう。普段は、生ごみは水分を減らすように心がけています」と語ってくださいました。

「3R宣言賛同者」を募るたびに、ごみ問題について関心を持っていただけるための対話が必要であると痛感しています。県立森林公園「21世紀の森」において8月11日(日)に開催された「環境と森と木のまつり」においても、「3R宣言賛同者」を募りました。



特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除

渋川市 伊藤朝弘

初夏に黄色い美しい花を咲かせるオオキンケイギクは、北米原産の多年草で繁殖力が強く日本固有の植物に悪影響を与えることから環境省は 2006 年に特定外来生物に指定しました。

県と渋川市はこの花の栽培や運搬禁止を呼び掛けています。

昨年 6 月に新聞等を拝見し、早速地元企業の方に相談したところ 5 社から心強い賛同を頂き、県・市、更に環境アドバイザーの皆様のご指導によりリーフレットの作成に着手し 12 月に完成しました。

このリーフレットを花の開花を考慮して年明けの 4 月と 6 月の 2 回、各自治会長のご協力を頂き広報誌と合わせて回覧して頂きました。

その結果 5 月 18 日に初めて河川敷で確認しました。その後は急速に情報が入り 7 月 12 日現在で 53 件中 48 件駆除することができました。これらの対応は県・市をはじめ自治会、老人会、婦人会、ボアランティア、そして地域住民の皆様のおかげであります。

これからも情報が入れば対応して参りたいと思います。



上州ぐんま市民環境保全活動発表会

広報委員会 副委員長 小峯幸子

まだ梅雨さなかの 7 月 6 日（土）高崎商科大学において「第 1 回 上州ぐんま市民環境保全活動発表会&交流会」が開催されました。この会は、群馬県を中心に環境保全活動を行っている市民・民間団体・企業の方々に、その活動内容を発表いただき相互交流する機会を設け、さらなる発展を目的としたイベントで、約 150 名が参加しました。

主催は、群馬県環境アドバイザー連絡協議会に所属されている高崎商科大学の萩原豪准教授が率いる上州ぐんま ESD 実践研究会。事前に応募された延べ 17 団体の発表者が、A.口頭、B.茶話会、C. ポスターの各形式からスタイルを選んで発表し、聴講者と意見を交わしていました。ゼミ生が主体となって会を運営し、また大学の基礎教育科目「環境と資源」の授業の一環として実施されたため、一般参加者と共に多くの学生が、県内における様々な活動や状況を学ぶ良い機会となりました。

環境アドバイザー連絡協議会広報委員会では、かねてより環境アドバイザーの横の連携を図るための機会を持ちたいと考えており、この会に協力という形で参加し、発表者の資料作成などのお手伝いをさせていただきました。次回は 11 月 30 日（土）・12 月 1 日（日）に高崎商科大学で予定しています。参加されてみてはいかがでしょうか。



B.茶話会形式の様子

【 第 1 回 上州ぐんま市民環境保全活動発表会 & 交流会発表内容 】

A. 口頭

- ① 農薬は安全なのか？（井上金治／群馬県環境アドバイザー 前橋部会／埼玉大学名誉教授）
- ② 今まで捨てられていた、排温水からの熱エネルギーの再利用
(高屋勇人／株式会社スイシン・エスト)
- ③ リユース食器について（藤森昇／群馬県環境アドバイザー 高崎地区会）
- ④ 木部町協議会の活動概要（田中勇一／木部町環境保全推進協議会／木部町前区長）

B. 茶話会

- ① 持続可能な森づくりを目指して（酒井千富・高野友太郎／桜山きづきの森）
- ② チョウ類をシンボルとした自然保護・保全活動
(宮前和夫／群馬ナチュラリスト自然保護協議会)
- ③ 谷川岳氷河の話題（中島啓治／群馬県環境アドバイザー）
- ④ 高齢化社会を迎えて：新生会 HALC 自然学校の取組（国安俊夫／HALC 自然学校講師）
- ⑤ 木部町協議会の活動内容（田中勇一／木部町環境保全推進協議会）
- ⑥ 高崎商科大学・萩原ゼミの活動紹介（高崎商科大学萩原ゼミ、上州ぐんま ESD 実践研究会）

C. ポスター

- ① 失敗してもいいから“自ら考える”地域環境学習の実践（酒井義明／株式会社測設）
- ② 見つけてみよう、無理なくできるエコライフ（高橋照代／前橋市城南地区地域づくり協議会）
- ③ 谷川岳氷河の話題（中島啓治／群馬県環境アドバイザー）
- ④ のりものしごとフォーラム（奈賀由香子／のりのり学会）
- ⑤ 下仁田高校ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業の活動紹介
(夏目智明／群馬県立下仁田高等学校教諭)
- ⑥ チームたんぽぽによる上州と三陸を結ぶ東日本大震災被災地支援活動
(上州ぐんま ESD 実践研究会)
- ⑦ 高崎商科大学・萩原ゼミの活動紹介（高崎商科大学萩原ゼミ）



A. 口頭発表会



C. ポスター発表

ごみ減量に対する環境アドバイザーとしての対応

広報委員会

下表は第9期環境アドバイザー代表須永氏および同副代表吉澤氏がまとめられた、ごみ減量に対する環境アドバイザーの対応に関する一覧です。県からの連携提案に対して、9月2日（火）の連絡協議会幹事会で、アドバイザーとして今後本提示案に沿って対応することを確認しました。アドバイザー各位におかれましては、本対応策に沿った取り組みをお願いします。尚、県廃棄物・リサイクル課から、「食べきり協力店登録への働きかけ」の進め方について分かり易い資料が作成されていますので、お問い合わせください。

「ごみ減量に係る環境アドバイザーとの連携について」 県からの連携提案項目とアドバイザーの対応				令和元年9月3日（火） 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
項目	概要	アドバイザーへの 連携要請内容	県が用意する 資料	アドバイザーとしての対応
①食べきり協力店の開拓とPR	飲食店、宿泊施設、小売店に「ぐんまちゃんの食べきり協力店」登録制度の普及	・地域の飲食店、宿泊施設、小売店に、制度の紹介と登録の働きかけ	・食べきり協力店登録制度説明資料 ・登録用紙	・アドバイザーの会合時に、本制度に積極的に取り組むことを提案する ・(1)行きつけの飲食店に説明資料を持って行き、紹介と登録を要請(2)県に制度を紹介した店舗を連絡(電話で可) ・県には定期的な登録状況の連絡を要望
②「3きり運動」、「30・10運動」の啓発と普及	・家庭から出る生ごみを減らす「3きり運動」 ・宴会での食べ残しを減らす「30・10運動」の実践の呼びかけ	・地域での学習会等における住民への広報啓発や、イベントや会合等での普及・実践について協力を	・3きり運動チラシ ・30・10運動チラシ ・ 〃 三角卓上POP ・ 〃 幹事用マニュアル	・アドバイザー在住の地域で開催される学習会・会合やイベントの主催者に、ちらしの配布や説明、実行を働きかける ・宴会の主催者に「30・10運動」の実施を働きかける
③ぐんま3R宣言	・身近に実践できる3Rの取組を気軽に宣言していただき、県民の皆さんの継続的な取り組みを後押しする	・地域のイベントや学習会等において、一人でも多くの方に宣言してもらえよう、取り組みの説明や呼びかけ	・3R宣言書用紙 ・受付簿(登録票)	・地域のイベントや学習会、会合の主催者に「3R宣言」をしてもらうよう働きかける ・取り組みを行う時は県に連絡し、受付簿、宣言用紙を送ってもらい、実施後名簿を県に提出
④リユース食器活用推進	県主催のイベント等において、リユース食器を使用して参加者に飲食物を提供し、リユース食器への理解と利用の促進に取り組む	・使用後のリユース食器の確実な回収を図るため、イベントブースでの呼びかけや見回り等、回収補助を	(なし)	・県からリユース食器を使用するイベントへの回収補助等の協力要請があったら積極的に参加する。 ・行政や地域のイベント等でのリユース食器の使用を働きかける
⑤学習会等における啓発冊子の活用	普及啓発冊子「ぐんまちゃんのごみBOOK」を作成。環境アドバイザーの取り組み事例等も掲載	・地域での学習会等において積極的に活用を	・ぐんまちゃんのごみBOOK	・地域の学習会の主催者に紹介し、活用を働きかける ・この冊子を使ったごみ減量の学習会を積極的企画、開催する

〔文責:第9期群馬県環境アドバイザー連絡協議会代表／須永、副代表／吉澤〕

編集後記

広報委員会 酒井義明

10月1日の消費増税により、飲料食品等の一部には軽減税率が導入されました。外食にあたるものは標準税率となり、外食にあたらなないテイクアウトや出前は軽減税率の適用となります。消費者の心情としては、税率の低いテイクアウトや出前を選択しがちになります。そのため、今まで以上にゴミの排出量が増えることが懸念されます。皆さまがこれまで啓発してきたマイバック等のゴミ抑制活動がより重要となります。引き続きのご協力お願いいたします。